移植施設から紹介元医療機関への情報提供内容の検討
－腎移植を希望して紹介された患者の現状分析から－

瀬田川美香[1)]、伊藤　歩[1)]、相庭結花[1)]、夏井　遼[1)]、鈴木友花[1)]、山本竜平[2)]、
森　瑞季[2)]、梶原知佳[2)]、石田雅宣[2)]、降幡研吾[2)]、藤山信弘[3)]、齋藤雅也[4)]、
齋藤　満[2)]、羽渕友則[2)]
秋田大学医学部附属病院 看護部[1)]、同 泌尿器科[2)]
同 腎疾患先端医療センター[3)]、同 血液・腎臓・膠原病内科[4)]

Information to be provided from a transplant center to referring institutions: a single-center analysis of patients referred for kidney transplantation

Mika Setagawa[1)], Ayumu Ito[1)], Yuika Aiba[1)], Ryo Natsui[1)], Yuka Suzuki[1)],
Ryohei Yamamoto[2)], Mizuki Mori[2)], Chika Kajiwara[2)], Masanori Ishida[2)],
Kengo Furihata[2)], Nobuhiro Fujiyama[3)], Masaya Saito[4)],
Mitsuru Saito[2)], and Tomonori Habuchi[2)]
Nursing Department, Akita University Hospital[1)]
Department of Urology, Akita University Graduate School of Medicine[2)]
Center for Kidney Disease and Transplantation, Akita University Hospital[3)]
Department of Hematology, Nephrology and Rheumatology,
Akita University Graduate School of Medicine[4)]

＜目的＞

移植施設が紹介元施設に腎移植希望患者に関しての情報提供を行うにあたり、移植前外来の現状分析を行い、情報提供内容について後方視的に検討した。

＜方法＞

2021年４月～2024年12月の間に腎移植を希望して当院へ紹介された患者114例（延べ人数）を対象とした。調査内容は、①レシピエント候補とドナー候補の属性　②生体腎移植または献腎移植の希望と生体腎移植における移植施行可能率　③保存期腎不全症例におけるpreemptive kidney transplantation（PEKT）の実施率　④当院CKD外来（療法選択外来）への紹介の実態を調査し、一部項目でMann-WhitneyのＵ検定を施行した。本調査では入院前に定期的な透析を行わずに移植に至った症例をPEKTとした。

＜結果＞

生体移植希望者が91例、献腎移植登録希望者が23例、うち当院での移植検査を開始せず受診終了した患者が７例であった。生体腎移植を行うことができなかったペアは13組で、ドナー候補者要因が12組、レシピエント候補者要因が１組であり、関係性としては親子、理由としてはドナー候補者の採血結果が８組で最も多かった。生体腎移植に至るまでの期間は５ヶ月（中央値）であった。保存期腎不全で紹介された患者59例のうち、生体移植希望者は52例、うち移植を行えたのは39例（75.0％）で、当院紹介後の入院前までに透析導入した患者が13名であった。PEKTで行えた26例のうち、11例が入院後の数回の血液透析を必要とした。PEKTが施行できた症例の腎機能はS-Cr 4.54mg/dL（中央値）、eGFR10.5mL/min/1.73㎡（中央値）であり、PEKTを施行しなかった症例と比較して有意に腎機能が高かった。当院のCKD外来から紹介を受けた症例は、献腎移植登録を選択した患者が全て保存期腎不全の症例であったこと、PEKTで移植できた４例のうち、移植までに一切透析を行わずにPEKTが行えた割合が３例（75.0％）と高い傾向にあった。

＜考察＞

保存期腎不全でPEKT希望の場合は、移植に至るまでの期間や紹介時の腎機能の目安（S-Cr 5 mg/dL未満、eGFR10.5mL/min/1.73㎡以上で紹介）について紹介元医療機関に情報提供していく。また、紹介元医療機関へ透析目的で紹介され、療法選択説明を行った際に腎移植希望があり当院へ紹介された場合は、受診までのタイムラグが生じる可能性が高い。紹介元医療機関へ紹介する医療機関にも早期の専門機関への紹介や腎移植の選択肢提示の情報提供を行っていく必要がある。

＜利益相反の開示＞

本論文の掲載内容に関して開示すべきCOIはございません。